

## まとめ

2015年版のグローバルリスク報告書におき、専門家および世界的意思決定者の視点に基づいて10年間にわたり実施されてきた世界の最も重大かつ長期的リスクを特定する作業を完了します。この期間中に分析作業はリスクの特定から、リスクの関連性および結果として発生する可能性が高いカスケード効果に関する徹底的な考察へと移行しました。この作業をさらに1歩進めて、今年の報告書では、グローバルリスクの持つ潜在的な原因および解決策に焦点を当てています。報告書の従来分類（経済、環境、社会、地政学、技術）において28のグローバルリスクに関する見解を詳しく説明するだけでなく、13のトレンドの形式で、これらのリスクに勢いを与える力についても検討します。さらに、重要な課題に対処するためのイニシアチブを選択しました。このイニシアチブが、企業、政府、市民社会コミュニティ間の協力を促進することを期待しています。

グローバルリスクは不明確な事象または状態であり、これが発生すると、今後10年以内に複数の国または産業界に重大な悪影響をもたらす可能性があります。

トレンドの定義とは、長期的パターンとして現時点におき発生しているグローバルリスクを増幅することがある、もしくは、それらの関係性を変えることがある、またはその両方が起こりうる可能性があるものとされます。

## 2015年のグローバルリスクのマッピング

最も発生する可能性が高く、影響力が大きいグローバルリスクのマップであるグローバルリスク概観では、ベルリンの壁崩壊後25年で「国家間紛争」が再び最大の懸案事項であることが示されています（表1を参照）。ただし2015年は、技術的リスク、特にサイバー攻撃、の増大および新しい経済的実態の点から、地政学的緊張がこれまでとは全く違った形で表れていることに気がきます。情報が瞬時に世界中に流れ、新興技術によって、新規プレイヤーおよび新しいタイプの戦争行為の影響が、増大しています。同時に、大災害が起こる可能性に対する過去の警告が裏付けられ始めながら、十分な対策がなされていません。この事は、今年の報告書の気候変動への適応の失敗および不気味に迫る水危機への大きな懸念に反映されています。

これらの複数の分野横断的な課題は、社会の安定を脅かす可能性があり、他のリスクと最も関連性の高い2015年の問題であると理解されています。さらに状況は、緊迫した公共財政および継続的な失業という世界的な経済危機の遺産によって悪化しています。中心的なテーマである深刻な社会不安が、重要なパラドックスを強調しています。このパラドックスは世界的な経済危機以来くすぶっていましたが、これは今年の報告書で顕著に表出されています。グローバルリスクは影響の境界および範囲を超えており、ステークホルダーは一丸となって取り組む必要があります。ただし、これらのリスクはまた、新たなグローバルな課題に取り組むにあたり必要な信頼と協力を損なう恐れがあります。

図 1:発生する可能性の高さと影響力に関する10のグローバルリスク

発生する可能性の高い上位10のリスク	影響が大きい上位10のリスク
1 国家間紛争	1 水危機
2 異常気象事象	2 感染性疾患の蔓延
3 国家統治の失敗	3 大量破壊兵器
4 国家の崩壊または危機	4 国家間紛争
5 失業または過少雇用	5 気候変動への適応失敗
6 自然災害	6 エネルギー価格ショック
7 気候変動への適応失敗	7 情報基盤の重大な機能停止
8 水危機	8 財政危機
9 データ不正またはデータ窃盗	9 失業または過少雇用
10 サイバー攻撃	10 生物多様性の喪失および生態系の崩壊

ただし世界はますます複雑になるリスク環境に対して、十分な準備ができていません。この報告書は初めて、地域レベルでの次の問題に関する洞察を提供します：ヨーロッパ、ラテンアメリカ・カリブ諸国、中東、北アフリカが最も準備できていない三つのグローバルリスクに特徴づけられる社会不安。南アジアでの都市計画の失敗から中東および北アフリカでの水危機に至るまでの、その他の社会的リスクもまた顕著です。持続的な失業（社会不安に関連する重要なリスク）に取り組む能力は、ヨーロッパおよびサハラ以南のアフリカの主要な懸案事項です。

The Global Risks Perception Survey 2014（グローバルリスク見識調査 2014）では、世界経済フォーラムのマルチ・ステークホルダー・コミュニティのほぼ 900 のメンバーの見解が、2014 年 7 月～9 月に集められました。

前年までのように、パート 2 では この調査結果に存在する三つのリスクが詳しく調査されていません。2015 年には、これらは以下のとおりです。

**地政学と経済学の相互作用**：地政学と経済学の連携は、国家間の地域の統合と通商条約から保護主義政策までの経済学的ツール、および国境を越えた投資の使用を強化して、相対的な地政学的勢力を確立しようとしていることにより強まってきています。これは、グローバル経済協力の論理に悪影響を与え、完全な国際ルールベースのシステムを弱体化させる可能性があります。

**開発途上国の都市化**：世界は、主に田舎から都会生活への主要な移行の途中であり、都市はアジアおよびアフリカで最も急速に成長しています。適切に管理すれば、これは革新を生み出し、経済成長を促進するうえで有用です。ただし、広範なグローバルリスク-気候変動、世界的流行病、社会不安、サイバー脅威、インフラ整備に対処する能力は、主に都市がどのように適切に運営されるかによって決まります。

**新興技術の管理**：技術変化のペースはこれまでになく速くなっています。合成生物学、人工知能などの分野では、新しい基礎的機能が作り出されており、これらは、世界の最も差し迫った問題を解決するために多大な可能性をもたらしています。同時に、これらには予測し難いリスクがあります。監視メカニズムによって、倫理的問題および中長期のリスクについて、経済、環境および社会的な側面からより深く検討し、期待できる利点と商業ニーズの間で効果的にバランスをとる必要があります。

グローバルリスクを緩和し、これに準備し、これに対するレジリエンス（回復力）を構築することは長期にわたる複雑な作業であり、往々にして理論的には認識されていますが、実践することは困難です。この背景に対して、パート 3 では、異常気象の事象および気候変動への適応への対応として策定された、実証済みまたは有望な三つのイニシアチブについて説明します。オーストラリアの **Murray-Darling Basin** 川システムのモデリングは革新的な水管理法であり、現在では世界の他の場所でも適用されています。**Resilient America Roundtable** は現在、米國中から選抜されたローカル コミュニティがさまざまなリスクによってどのような影響を受ける可能性があるかを理解し、レジリエンス・ストラテジーを策定する手助けをしています。ドイツの広範囲にわたる洪水管理プログラムの一部である **ZÜRS Public** はパブリック・プライベート間の連携であり、これまで数年間、住宅所有者および企業が洪水のリスクに晒されることに関する両者のコミュニケーションツールになっています。

これまで 10 年間、グローバルリスク報告書は、相互につながりのある性質のグローバルリスクによる危険に対する認識を高め、マルチ・ステークホルダーに粘り強くこれらに対処すべく協力を要請してきました。リスクの特定と評価から実行まで“「何を」から「どのようにして」まで”の広

範囲な概説を提供することにより、今年の報告書は、その 10 年の歴史の中で、最も包括的な一連の洞察を意思決定者に提供することを目的としています。